

e-ビーフNEWS 北の牧場から

February 2023

十勝の寒さの佳境

凍る寒さが続いています。先日、帯広で-20℃いった時に、牧場では-25。さすがにすべてがカチンカチン。水を出しっぱなしにしていたボイラーも止まっており、あわてました。ストーブにかけていたやかんの湯をかけ、やっと蛇口からちょろちょろ、ジャー。やったねと安堵。それから、牛たちの給水場の解冻作業が続き、トラクターやショベルもやっとの思いでかかってくれて、スローペースの牧場作業が開始。そのころには、指先や耳の切れる痛みも解消してきました。

黒毛の牛たちも、霧氷が咲いたように体毛が霜に覆われて白牛に。動きはスローながら、元気にデントコーンをもりもり食べています。カラスやスズメ、鳩たちがやってきて、ついばんでいます。渡り鳥のカケスやハクチョウはまだ戻ってきてません。静かな白銀の世界が続きます。



活動のお知らせ

- 3/7(火)~10(金) FOODEX JAPAN 2023 国際食品・飲料展「北海道十勝物産館」 東京ビッグサイト
2/10(金) 事務局会議 ZOOM会議
1.次回シンポジウム2023のテーマ
2.次年度役員人事・事務局体制について

NEWSばか読み

- GAP 共通マークの運用が開始1/5:普及化しないと
- 円高、輸入原料の高騰で国産転嫁の傾向進む
1/5:供給体制が整うか
- 厚労省 生活保護申請が増加 コロナ物価高で高齢者半数
1/5:社会構造のしわ寄せ
- 農水省 農業産出額8兆8千億円 コメ産地苦戦、畜産堅調
1/5:どこまでいけるか
- 農水省 下落時の和牛助成継続1/6:施策が生きるか?
- 動物園 害獣のと体のそのまま給与が拡大1/6:野性的でいいな
- 日本食肉格付協会 豚の見直し規格(枝肉重、オレイン酸測定)がスタート1/7:始まった
- 22年農産物輸出額が最高更新 牛乳、乳製品が好調
1/7:伸ばしてほしい
- 生協組合員数が3,000万人突破 オンラインや有機の利用度増
1/7:流れ
- alic調査 量販店の国産牛販売シフト加速 輸入牛肉高騰で
1/9:継続的に
- 米作の1割16万haが高温耐性稲に 全国で拡大
1/10:温暖化対策
- JA佐久間 堆肥のペレット普及で始動 みどり新法活用
1/11:動き始まった
- 病虫害薬剤抵抗性対策が普及の兆し 農薬ローテや天敵活用で
1/13:必須
- JAいばらぎ 農産物の生産コスト上昇額を「見える化」で試算表作成1/14:実態把握
- 農水省 基本法見直しで環境負荷低減を主流に有機支援を拡大
1/14:始まり
- 十勝人工授精所 種牛「奈緑(なつか)」BMS10.8全国販売に
1/15:まだ脂肪交雑
- 配合飼料安定基金の残高が減少 641億円から45億円
1/17:補てん財源なし
- 日銀 22年企業物価指数9.7%上昇 過去最高1/17:すべてに影響
- 自治体 河川敷の貸し出しが増加 粗飼料増産へ
1/18:未用地がまだまだあるよ
- 農水省 下水汚泥の肥料化に向け公正規格の作成1/19:活用急げ
- 上川地区 バイオプラスチック原料向けコメ栽培を開始
1/19:多様性追求
- 配合飼料価格安定制度 財源不足で10月12月補填満額出ず
1/20:どうする
- JA宮城から稲わら JA鹿児島から堆肥 南北1500kの耕畜連携
1/21:マイレージは
- 兵庫県豊岡市 JAたじまから調達 全小中学校で100%有機米を使用
1/23:積極策
- 厚労省 出生数80万人割れ 前年5%減 予想より10年早いペース
1/26:進む少子高齢化
- 東京・大阪青果市場 寒波で生産鈍化 品薄で相場高騰1/27:自然
- Jミルク 23年度 生乳生産が減少局面に
1/28:抑制策以上に拡大か
- 1月東京物価指数 昨対4.3%増 4年ぶりに高水準
1/28:消費がとん挫?
- 学食パン 国産小麦の使用が拡大傾向1/29:定着期待
- 総務省 東京の移入超過が拡大 行動抑制が緩む
1/30:コロナ前に戻るか

東京直近NEWS(1/29 Shi-REPORT)

ホルス

相場は下げ基調で大幅に下落。年始以降、販売状況鈍く相場も低迷傾向。パーツについても近年余剰無の状況続いていたが直近はスポット含むパーツ発生場面有り。販売状況は量販が特に鈍く、チルド切落しも不振。チルド販売鈍いため冷凍仕込みで製造切替で在庫確保。出回り頭数は少ない状況変わらずも、それ以上に販売不振で枝相場にも反映。

経産牛

経産牛相場はガリ系下げ基調も脂物は相場維持。上々頭数は増加しており、生乳需要の減少から出回り頭数はガリ枝中心に維持と今後補助金もあり当面は頭数増予測。パーツの引合は一定維持、年度更新控え問合せも増加傾向。出荷頭数は増傾向も、各産地屠畜加工が追い付かず制限される場面も。挽き材は一定注文維持しており輸入物との動向に注視必要。

1.畜産技術812号(2023.1)

(1)特集:アニマルウェルフェア 総論(新村毅、農工大)

アニマルウェルフェア(AW)は日本語では「動物福祉」と訳され動物の快適から不快までの状態を国際獣疫事務局(OIE)の国際基準に依拠し、5つの自由(即ち、空腹と渇き不快、痛み・損傷・疾病、恐怖と苦痛、正常行動発現規制、からの自由)により総合評価しています。EUでは採卵鶏のバタリーゲージ飼育などが禁止され、消費者はAWを好意的に受け止め、欧米の食品関連企業はAWを商品の宣伝に活用しています。日本では農水省が示した「飼養管理指針」を家畜福祉のガイドラインとしていますが、生産者への浸透とは対照的に消費者のAWへの認知度は欧米より相当低いようです。

(2)乳用牛・肉用牛におけるアニマルウェルフェア(竹田謙一、信大、深澤充、東北大)

乳用牛・肉用牛のアニマルウェルフェア(AW)の日本のガイドラインには栄養、牛舎構造、環境などと共に管理方法(断尾、搾乳、乾乳、去勢、鼻環)の改善指針が示されており、特に肉用牛には痛みを伴う管理(去勢・徐角・鼻環装着)があり、安全な取扱や高品質肉生産に必要な最小限の外科的処置としており、徐角は角が未発達の際に実施が推奨されています。酪農分野では長期の拘束による行動抑制と苦痛からの解放やカウコンフロートなどの快適環境形成と飼育改善が必要とされています。

(3)アニマルウェルフェアにかかる経営コストと小売価格(加藤博美、農業・食品産技総研機構・動物行動管理G)

家畜の福祉(AW)と畜産物の価格の関係性について採卵鶏、卵価を

モデルに解析しました。両者の関係には、価格は安いAWレベルが低い段階、AWは向上するが生産性低下で価格が高い段階、AWレベルと消費者の選好による価格のバランスの良い段階があり、最終的なAWの到達点は生産者、研究者、消費者、行政担当者、関連業者の連携が必要です

(4)技術情報:北海道上川町におけるヒグマ食害に対応した飼料用ソルガム導入への道のり(野原弘義、上川農改セ)

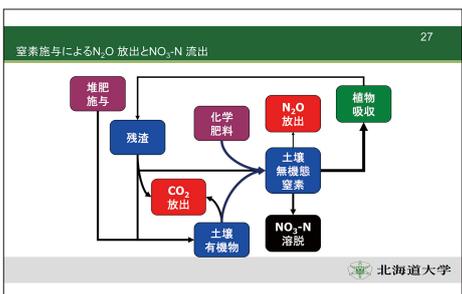
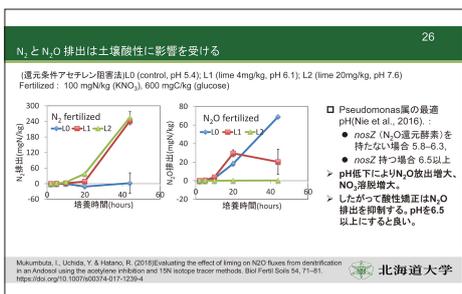
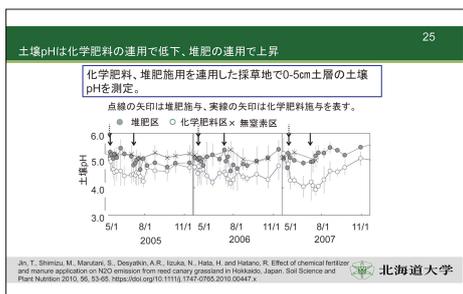
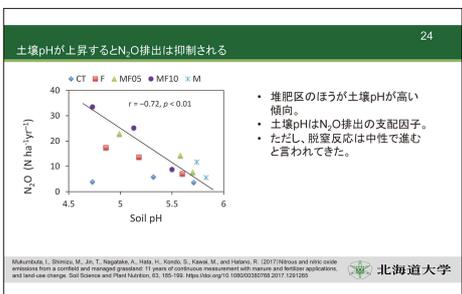
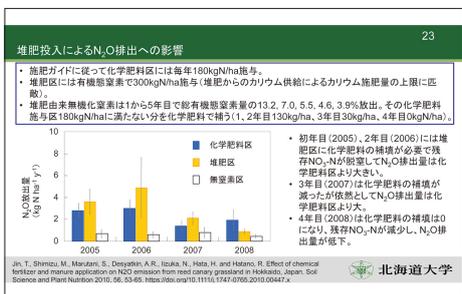
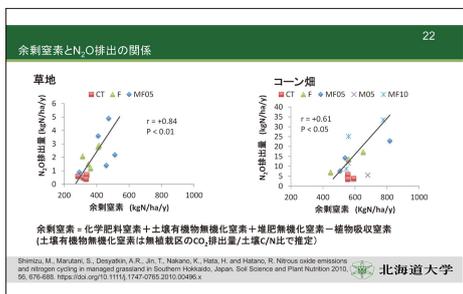
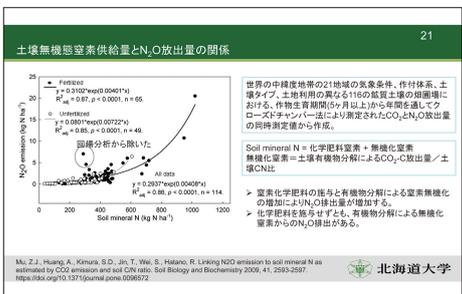
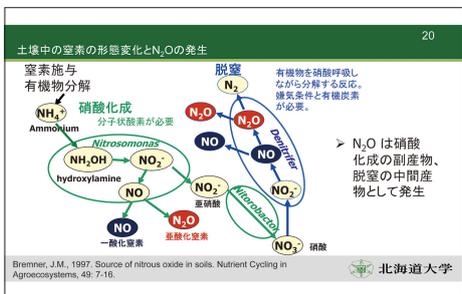
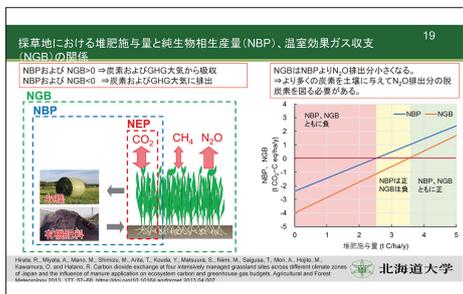
北海道のヒグマによる農業被害額は2.5億円、コーンの被害は1億円以上で上川農改セではトモロコシと作業体形が似ていることや形態的に高伸長無子実でヒグマの食害が少ないことで北アフリカ原産のソルガムの導入を検討しました。適正品種としては低温伸長性に優れた「ターザン」種が推奨されます。

(5)用語解説:農業DX(デジタルトランスフォーメーション)(相田剛伸、農水省畜産局)

デジタルトランスフォーメーションは「情報通信技術(ICT)の浸透が人間生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること」と定義されています。また、日本の食料・農業農村基本計画では「農業者の高齢化、労働力不足に対応して生産性を向上させ農業を成長産業にするためにデジタル技術を活用して消費者ニーズに対応した価値を創出する新たな農業に変革する必要がある。そのための農業デジタルトランスフォーメーション(農業DX)の実現が不可欠」としています。その例として搾乳ロボットの機能的活用があります。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2022

基調講演「脱炭素社会における資源循環型牛肉生産」5回シリーズ③ 北海道大学名誉教授(土壌学研究室:環境循環型・土壌生物・微生物) 波多野 隆介氏



転載・再利用は固くお断りします